

平成26年度 やまゆい保育所 自己評価

No.	評価項目	自己評価
1	・月週案の内容を把握し、保育に従事できたか。	立案した保育指導案を基に、クラス担任が毎日確認しあい保育に取り組んでいた。また、週末には反省を行い更に月末に反省を行うことで、次月の計画に活かすことができていた。
2	・保育士間との連携を図り、自分よがりの保育にならなかったか。	常に保育士同士が話し合うことができる雰囲気があり、連携がとれた保育に取り組むことができていた。
3	・個々の子どもの発育状況を把握し、個々にあった保育に努めたか。	保育士全員が共通理解をして、個々の発育状況と個性を理解して取り組めるよう、必要に応じてケース会議を行うなどして取り組んだ。
4	・子ども中心の保育に努め、保育士側の都合保育になっていなかったか。	子ども中心の保育に努めたが、製作活動等を計画することで保育士側のペースで完成をさせようとする場面も見受けられた。
5	・安全第一を心がけた保育ができたか。	ヒヤリハットを毎日確認し、安全点検や備品点検を行った。また、毎月の避難訓練を継続し、その都度反省を行い危機管理の継続に努めた。
6	・保護者にわかりやすく説明し、連絡帳に簡潔明瞭な表現で記載できたか。	保護者が文章を読んだ際に、保育所での様子や伝えたいことが十分にわかるよう勉強会を行うなどした。また、個々のケース記録も成長が一目でわかるような記入の仕方に改善した。
7	・言葉遣いに配慮し、子どもや保護者・職員間に嫌な思いをさせなかったか。	親しき仲にも礼儀ありをモットーに、挨拶や声掛けをひとり一人が意識して行うよう心かけた。
8	・保育所全体を把握し、気配り目配りができたか。	後半、クラス分けをしたことで担任となったクラスを重視し、他のクラスへの気配りが薄れた部分もみられた。その分クラスの整頓が充実したという良い部分もあったが、全体の把握に薄れた。
9	・どんな事柄も一生懸命に取り組もうとし、愚痴をこぼさずできたか。	愚痴をこぼしても、前向きに取り組もうという姿勢がみられた。
10	・常に子ども目線で保育環境を整備しようと努めたか。	ハード面では、保育士の目線で玩具を配置したりしないよう、職員会議等で話し合い配置した。また、個々の性格等を把握し甘えたい子には十分応答するなど満足できるような保育に努めた。
11	・自己研鑽に努め、保育の質を高めるよう努めたか。	毎月の勉強会を行い、保育のマンネリ化に陥らないよう努めた。しかし、外部研修に参加する機会が少なかった。保育士は、毎日の保育従事に追われがちのため、小さな情報でも共有する努力をした。
12	・子どもの言葉や仕草を観察し、やさしく応答できたか。	複数担任での保育から、やさしく応答されていないと感じた場面ではもう一人の保育士がフォローに入るなどして、子どもが不安にならないよう努めた。また、職員会議等で常に居心地の良い保育環境をつくれるよう心かけ
13	・保育に工夫をこらし、マンネリ化した保育にならないよう努めたか。	それぞれの保育士が、毎日の活動に工夫をして取り組もうという姿勢はあったが多動児やアレルギー児の安全面等の重視から、思うような保育ができない場面も多々あった。
14	・「ヒヤリハット」を検証し、次に起こりうる事故防止対策に努めたか。	毎日の「ヒヤリハット」確認を行った。また、午睡中の安全チェックを表チェックをしながら予想できる事故防止に努めた。
15	・書類等を期限内に作成し提出できたか。	書類等の提出期間内に提出するという目標を立てることで、仕事の段取り配分に繋がるということを認識してもらい、個別計画の立案や反省を毎月行うことが習慣づくことで、保育に取り組む姿勢も充実していきけることを周
16	・自己の体調を管理し、他の職員に迷惑がかからないよう努めたか。	複数担任での保育であることから、日々の体調管理も仕事人としての姿勢であることを認識し、早めの対応を進め重篤化しないよう努めた。また、子どもからの感染も多い職種から、手洗いうがいの徹底に努めた。
17	総合評価 ・安全な保育に努め、ハード面は毎月の安全点検の実施、隔週の備品点検を実施した。また、あらゆる想定での避難訓練を毎月実施することを継続した。 ・子どもの健康は食からをモットーに、毎日提供する食事を毎月細かく検討し、放射線線量測定を毎日実施した。 ・園庭の整備をし、戸外遊びの充実を図れるよう努めた。 ・子どもの個々の成長に合わせた保育に取り組むために、ケース会議を実施し、より良い保育実践に取り組んだ。 ・毎月の職員会議に於いて、勉強会を行い保育の質を高められるよう努めた。	